

議会広報紙発行特別委員会先進地視察研修報告書

- 期 日 平成29年2月8日（水）、9日（木）
- 視 察 先 滋賀県竜王町、甲賀市
- 参 加 者 委員8名、副議長、随員2名 合計11名
- 視察概要

【 滋賀県竜王町 】

- 人 口 12,314人（H28.12月末現在）
- 面 積 44.55km²
- 調査事項 「議会だよりの編集について」

竜王町議会だよりは、平成27年度の第30回町村議会広報コンクールの「編集・デザイン部門」において、「奨励賞」を受賞している。

1. 発行までの期間

発行は、各定例会終了後、翌々月の1日付

（本市は翌々月20日付なので、約20日早く発行している。）

2. 企画から編集・発行までの流れ

委員会の開催は基本4～6回。（開会中1日+閉会中3～5回）

このほか、各自での作業がある。

1回目・・・定例会2日目

記事内容、ページ数、担当割り振り。

2回目・・・定例会閉会直後

9：00～18：00

集まった原稿の整理、割付作業、印刷業者に出稿。

3回目・・・8：30～18：00 初校

4回目・・・9：00～18：00 第2校

（第2校以降は、事務局も文言を確認する）

5回目・・・随時～12：00 最終校正

3. 編集のポイント

- 編集は全ての行程を委員が行っている。
- 一般質問の原稿は、質問議員が、回答要旨を参考に質問・答弁を作成する。
質問項目が1問の場合は1 / 2 頁、2問以上の場合は1頁を割り振る。
- 「編集申し合わせ事項」を作成し、写真の選び方、キャプションのつけ方、見出しのつけ方、数字の書き方など一定のルールを示して、委員外の議員も担当したページを作りやすくしている。

4. 今後の課題

- 広報方針や広報編集マニュアルを策定すること。（平成29年3月完成予定）

Q 表紙の目次で「一般質問」の項目を一つだけ載せているが、どのようにして一つに絞っているのか。同様に「追跡」記事はどのように選んでいるのか。

A インパクトのありそうなものを委員会で選んでいる。割と和気あいあいとしていて、どれを取り上げるかで揉めたことはない。

Q 表紙の写真はどのようにして決めているのか。

A 季節感やタイムリーであることに配慮して決めている。

Q 委員会は毎回どのくらい時間をかけているのか。

A 各委員がそれぞれの持ち分を大方仕上げた状態で集まり、8時間程度の会議を5回開催している。

Q 一般質問の記事は、再質問まで載せているのか。

A 1回目の答弁しか文書で確認できないので、再質問は載せないこととしている。

Q 自分たちで作るには、センスが必要ではないか。

A センスなど誰も無い。初めから良いものを作ろうとするならば、ベストな方法は他の市町村の真似をすることではないか。

Q 委員の選出方法は。

A 挙手方式。

Q 出来栄をどのようにして確認しているのか。

A 今後、モニター制度等を導入したいと考えている。

Q 委員の役割分担は。

A 1回目の委員会で決めている。なるべく違うコーナーを担当するようにしている。

Q 市民に分かりやすくするための工夫は。

A 難しい単語は「うしまる君」が解説することになっている。

【 滋賀県甲賀市 】

○人 口 91,724人 (H28.12月末現在)

○面 積 481.62km²

○調査事項 「議会だよりの編集について」

甲賀市議会だよりは、平成19年度～26年度の間に、毎日新聞社主催の近畿市町村広報紙コンクールにおいて、優秀賞1回、優良賞2回、奨励賞2回を受賞している。

1. 発行までの期間

発行は、各定例会終了後、翌々月の1日付

(本市は翌々月20日付なので、約20日早く発行している。)

2. 企画から編集・発行までの流れ

委員会の開催は基本5回。このほか、各自での作業がある。

1回目・・・定例会開会直後

ページ数と企画内容を決め、担当を割り振る。

2回目・・・定例会閉会直後

集まった原稿の整理、割付作業、印刷業者に出稿。

3回目・・・初校

4回目・・・第2校

5回目・・・最終校正

※大きな修正がなければ、正副委員長だけで校正する。

3. 編集のポイント

○編集は全ての行程を委員が行っている。

○基本は「です」「ます」調、質問のページは「だ」「である」調に統一。

○代表質問と一般質問

・原稿は、基本的に個人の責任で作成。(ページ上部に「ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。」とある。)

- ・小見出しはQ&Aの形で、基本はそれぞれ15文字以内。
- ・「…について」という見出しは使わない。
- ・文字数を減らして余白を増やすため、答弁者の名前は無くし、文章の文字数も減らした。

(写真1枚の場合 620文字→500文字)

(写真2枚の場合 560文字→450文字)

- ・特別委員会、組合議会等の動きのページは、各特別委員長や組合議員が原稿を提出する。

○表紙のリニューアル

- ・「こうか市議会だより」⇒「あなたとつなぐ 甲賀市議会だより」
- ・「こうか」を「甲賀」に変えたのは、忍者の街としてのらしさを出すため。
- ・堅くならないように、ひらがなの「あなたとつなぐ」を大きくしている。

○裏面のリニューアル

- ・裏面は表面に続いて大切と考え、新たに「ええとこ“こうか再発見”」を連載。

○毎年8月1日号で、政務活動費の内訳を会派ごとにグラフで示している。

○ページ下部の余白に「公職選挙法メモ」を掲載

4. 今後の課題

- ①企画記事・特集のページにどれだけ力を入れるか。
- ②構成と印刷技術の改善。
- ③議員個人から提出される原稿の書き方の改善。
 - ※書き方の統一、分かりやすい言葉への置き換え。
- ④レイアウト・編集を工夫し、同時に時間をかけないこと。
- ⑤表紙の写真の取材。
- ⑥文字の大きさ。
- ⑦議会の臨場感が伝わる紙面。
- ⑧見出しの工夫、訴求力。(本文への案内板「ガイド役」)

Q 事務局は編集に携わるのか。

A 委員だけで作っている。事務局には最後の最後に文言のサポートを少し受ける。

Q 「こうか再発見」のネタ集めは。

A 担当委員が独断で選定。解説文は本から引用している。

Q 委員会に要する時間は。

A 1回目は、割振り等なので短時間だが、2回目以降は長時間。自分の分が終われば帰れる。

Q 写真の担当は。

A 交代で撮っている。

Q パソコンが苦手な委員は。

A パソコンで作る委員もいるが紙の原稿を基本としている。

Q 答弁者名を無くした理由は。

A 文字を減らすため。「市長だけは入れたほうが」という意見もあったが、質問を「・・・市長の考えを伺う。」として答弁者が市長であることを伝える方法もある。

Q 委員改選に備えて、編集のマニュアルは作成しているか。

A 作成していない。委員会では柔軟に進めたいが、各ページを委員以外が作成するためには、一定のルールがあったほうが良いと思う。

Q 研修は受けているのか。

A 毎年2日間の研修を1名以上が受けている。めちゃくちゃ参考になった。全議員で聞きに来ている議会もあった。

Q どうやって分かりやすい言葉にしているのか。

A 気を付けているが、なかなか難しいところ。

Q 写真はどのように撮っているのか。

A できるだけすべてのイベントに顔を出して撮るようにしている。

Q 一般質問の記事の、質問と答弁の割合は。

A 各議員が自分のページを作成するので、人によって違うが、議員の考えが伝わるように、質問を長く、答弁を短くという考えもある。再質問も掲載可としている。

Q 常任委員会等の記事は誰が作成するのか。

A 常任委員長が作成する。（広報委員会の内容をチェックする。）この際、常任委員長としての権限と広報委員会としての権限とで、争いの問題をはらんでいる。

☆☆ 各委員の所感等 ☆☆

◆町村議会や県議長会などが開催する研修会に積極的に参加しているようであった。

我々もまずは研修会に参加して基礎から学び、できることから変えていくべきではないかと思う。

◆表紙、裏表紙とも写真に重点を置き、目で訴える工夫がされていた。特に裏表紙は

市内の歴史や文化、伝統芸能などを載せている。本市も合併して市域が広がったので、各地域の歴史や文化を紙面を通して多くの市民に知ってもらうことも検討したい。

- ◆議員だけで編集発行できるようにすることは理想であり、最終的にはそれを目指さなければならないが、ほかにも改革すべきところがある。「良い広報紙を見て真似する」という言葉に広報紙の内容を充実させるためのヒントがあるのではないか。
- ◆両市町のように、我々も少しずつ委員の手で作り上げるようにしてみたいと思う。
- ◆本市議会も、簡単な言葉を使い、見出しを大きくして興味を引くような工夫をし、若者が読みたいと思うようなものを作れば良いと思う。
- ◆編集作業がすべて議員の手で行われていることに頭が下がる思いだ。栃木市に当てはめたらどうなのか。編集委員だけですべてをやるには正直無理であり、そこまで行くには時間がかかる。気持ちはあるがどうなのか。今後の重い課題を背負わされた研修であった。
- ◆紙面作成に当たり最後のページをカラー版にして、表表紙、裏表紙としたい。市民に表紙でアピールし、最後のページで魅せられたらいいと思った。
- ◆一番強く感じたのは、使命感を委員の方が強く持っており、他人任せにしないということ。大変反省した。市民に分かりやすく、自分自身も簡単に説明ができるような工夫を求めて、これからの広報委員会に臨みたい。
- ◆両市町とも企画、編集、校正まで、事務局任せではなく委員がやっているとのこと。見習うべきと思うが、最低限、企画、レイアウトなどは委員で考えるべきかと思う。
- ◆編集マニュアルはキッチリ作るべき。
- ◆甲賀市はページ数が24ページである。栃木市の規模からすれば、16ページでは少ない。ページ数を増やして、議案審査等の内容を充実させるべき。
- ◆両議会の広報紙とも、議員が大部分を作っているだけに、応接して下さった議員の方々は、広報紙にかける熱意も含め意気軒高であった。敬意を表する。しかし、個々の点では、優れた点が多々あったが、構成、編集デザインを含め、総体的には本広報紙も負けていない。
- ◆竜王町の紙面は、甲賀町や殊に本市等よりも相対的に自治体運営事案の多寡から、あるいは一般質問者の人数等から紙面をたっぷりと使うことができ、写真や見出しに大きなスペースを割くことができていた。編集・デザイン部門の奨励賞にふさわしく読みやすくできていた。本市では限界ありか。現状以上に紙面数は増やせないだろう。（読者の広報紙への読破興味からして）

- ◆本市では、見出し写真のスペースをより大きくとるために、文字情報をもっと減らすべきかもしれない。（技術論だが、一般質問各ページ紙面の中央『市政に対する一般質問』の囲み文字をはずしてスペースを稼ぐことはできないか。）
- ◆両広報紙の委員は意気軒高だったが、紙面の内容等は「事務局・議員連合チーム」の本市と大差ない（広報紙作成のスタンスを含め）と感じた。（本市では議員・職員を含めたチーム議会で作っていると認識している。）
- ◆甲賀町の一般質問のページは質問者に任されているが、（編集委員がチェックはする）記事上部に「ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。」を市民はどう読むか。「議会」発行、「議会発行特別委員会」編集の重さを忘れてはならないと考える。
- ◆甲賀町の受賞表紙には感服した。本市も現在の表紙対応の努力を維持し、全力投球すべきであろう。
- ◆甲賀町の例から裏表紙の大切さを実感した。本市も裏表紙をカラーにしてはどうか。広報紙は表紙と裏表紙で読ませる。
- ◆常任委員会・議会報告会運営委員会・政策研究会等と今以上に連携を図り、広報紙に積極的に取り入れていけば、広報の内容はおのずから充実し、レベルアップし、広報紙のもつ役割（町村議会広報紙全国コンクール審査方針前文等参照）も十分に果たせ、議会機能を果たしていくための一分野を担う戦略的な広報紙足りうると思う。このことが、昨年川西町視察の土台に乗る今回の視察から得た最大の収穫であったと考えている。
- ◆竜王町議会の広報委員の平均年齢は高いと感じたが、その皆さんが編集のほとんどを自分たちで手掛けていると聞いて驚いた。しっかりと活動しているなと感じた。
- ◆委員会の雰囲気は「仲の良い、和気あいあい」の感じで、それが紙面づくりに生きているように感じた。
- ◆記事の内容も編集委員会の中で詰めていく感じで、「皆、努力している」の言葉は重みがあった。
- ◆栃木市議会の議会だよりも、広報委員が自ら作る努力は必要ではないかと、改めて感じた。
- ◆編集委員会に事務局は当然入るべきであると感じた。
- ◆広報紙の中身としては、栃木市の議会だよりも決して遅れていないと感じた。本市の写真アドバイザー制度やモニター制度等についての逆質問があった。
- ◆「栃木市議会もそろそろ自分たちで作る気概を持つべきではないか」との言葉は、

各広報委員の背中を大きく押したように感じた。旧大平町の広報は、議員の手で作っていた実績があり、決して出来ないことではないと思っている。各委員のやる気の問題。今後、この広報委員会で自分たちが作ることに向けて、前向きに議論が進むことを願う。

- ◆竜王町は議員定数12名に対して半数の6名が広報委員になっており、主に新人議員が2年の任期で担当している。また、ベテラン議員においても自発的に委員として挙手すれば、受け入れられる状況であり議員個々人の資質ややる気の高さを強く感じた。
- ◆広報紙の作成については、構成、文章、レイアウト、写真等全ての作業において議員が中心的に携わっており、本市（栃木市は事務局主導型）との差を強く感じたとともに、本来の議会だより作成の意義を痛感した。・・・やはり議員主導で作成すべきである。
- ◆全て議員が作業の中心となり一定の形を作り上げ、事務局との整合を図っている。議員が中心となることが重要であり、栃木市議会にも反映していきたいと感じた。
- ◆竜王町では、全国町村会広報紙の表彰において「奨励賞」を受賞している。これは、広報紙を議会として作成するうえで、励みとなるばかりか継続していく上でのモチベーションアップにも繋がっていくと思われる。栃木市議会においても、同様な制度を模索して挑戦していければよいと思った。
- ◆広報委員の交代を含む、資料作成能力や安定した質（正確に、分かりやすく、伝わる）を維持するため、竜王町では広報編集マニュアルを平成29年3月までに策定予定している。この取り組みは大変素晴らしく、栃木市も是非取り入れていきたいと強く感じた。
- ◆両市町とも、原稿の整理、割付作業、校正等すべて委員が中心的に進めている。甲賀市では、最終校正については正副委員長だけで責了させている所は、大変参考になったとともに見習うべき点であると感じた。
- ◆広報紙作成において、それぞれの委員に責任を与えるため、ページの担当役割を決めている。また、特集ページを考察し連載させており、市民への注目度、関心度などへの工夫も見られ、大変参考となった。
- ◆どちらの自治体も市民目線を重要視しながら、議員自ら議論しながら作っており、改めて広報紙づくりの本質を強く感じた研修であった。本市においても、徐々に議員が主導となり、自らの手で作り上げていくことを今後提案し、実現していきたいと感じた。